

## 発刊の辞

祖山の教学は宗祖ご在世の時より、脈々として現代に引き継がれているのであるが、時代の流れに従って、教学の分野・研究方法・調査内容等が多岐にわたり、細分化すると同時に他方では総合的な見地に立つことも要求されてきている。

特に近年は日蓮教学・法華経教学と他の学問分野との関係を、広い視野から研究しようとする傾向が進み、グローバルな調査による成果の期待も増大しつつある。

本学には周知のごとく、短期大学の時代から、「仏教文化研究所」が設置され、各教員によって、それぞれの分野に於ける研究が進められてきた。その成果は機関誌として発行されてきた『棲神』を始めとして、「日本仏教学会」や「日本印度学仏教学会」等その他の研究誌・学会等で発表され、業績を重ねてきている通りである。

平成七年四月、四年制の大学として新発足するに及び、さらに広い視野から学問・研究を進めて行くことになり、スタッフも増員されたことから、教授会に於て「東洋文化研究所」と改称されて、一層の

充実を見る運びとなった。

爰に研究所として、年間の研究・調査の成果を世に送るべく、『所報』を発刊することになり、その第一号として「波木井実長と身延山」の特集号を編んだ次第である。

本年は身延山を日蓮聖人に寄進した南部六郎実長の正当七〇〇遠忌に相当することから、この特集を発願することになった次第であり、身延山にとっても又本研究所にしても、開基大檀越に関する研究をもつて、創刊号を飾ることができたことの意義は大きいものがあるといえる。

願わくばこの研究『所報』が、今後、続刊されることにより、多くの学徒に裨益するところ又大なるものがあるように念ずる次第である。

平成八年十月

身延山大学東洋文化研究所長

上 田 本 昌